

<はじめに>

これは、自分自身の記憶のもとに報告するものである。この程度の報告でとやかく言われたら、大変こまるし、それはとても閉鎖的な印象になりかねないと思う。このような考えのもと、個人の責任において、ここに記す。

<これまでの経緯>

日本ユネスコ協会連盟（以下、日ユ協連）は「どうも財政はたいへん」（参考：[第25回評議員会報告](#)）で、理事会で赤字を削減する「事業改善3カ年計画」を立案することになった。そこで様々な機会（参考：[第26回評議員会報告](#)）などで意見を集め、計画を具体的に進めていた。しかし「どう計画が進んでいるかなかなか見えないから可視化せよ」と評議員会（参考：[第27回評議員会報告](#)）訴えてきたわけだが…。

日ユ協連の第28回 評議員会（2012年9月1日開催）報告

日ユ協連の第28回 評議員会に関東ブロック選出青年評議員として出席した。
なお今回も、挙手の上、質問をしたので、あわせて報告する。

<今回の主な内容>

- ・新設構成団体加盟式
- ・松田会長挨拶
- ・前回評議員会の議事要録の承認
- ・日ユ協連の事業報告（2012年6～8月）
- ・世界寺子屋運動アフガニスタン・プロジェクトについて
- ・民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
- ・質疑応答

※民間ユネスコ運動の今後の発展に向けての部分で、「経営改善3カ年計画」という書類が配られ、3年間でどう予算を組むかの案が提示された。この書類は、「普及実践活動」「青少年活動」「組織拡充」など十数個の項目になっており、それぞれが2012年度の収支、2013年度の前年度比増減額、2014年度の前年度比増減額が書かれていた。特にわれわれ青年に関係のある「青少年活動」の項目をみると（詳細は省くが）今年度から来年度で事実上160万の削減という表になっている。

<発言内容>

今回、発言した主な内容は以下の通り。

手島：

提示された「経営改善3カ年計画」は、財政改善という点で評価する。ただ、数字は分かっても、会員としては中身が気になる。これを開示すべき。特に、私は青年代表ですので、「青少年活動」について見ると、来年度には160万の削減となっているが、何をどう削減することになるのか教えて欲しい。

寺尾事務局次長：

子どもキャンプを助成する等にすると、事務局経費、人件費等かからないということです。

手島：

ん？それはつまり、全国子どもキャンプが日ユ協連主催でなくなるということ？

事務局次長：

これは、まだ検討中です。その数字はあくまで案です。

手島：

これは決まったことでない？

事務局次長：

あくまで案です。

手島：

なるほど。では、それは一体いつどうやって削減されるのかを開示するのか。

事務局次長：

2013年度の収支予算書で開示します。

<みんなに知って欲しいこと&個人的感想>

※評議員会について書いてありますが、あくまでも個人的解釈、印象・感想です。

- ・ 今回の評議員会でも、嬉しいことに発言の機会があった。徹夜明けで眠すぎた。
- ・ 今回の評議員会では、さすがに「事業改善3カ年計画」の中身が出てくるのではないかと予想していたが数字だけだった。それで質問すると「子どもキャンプを助成する」という発言があった。それは『日ユ協連主催事業から全国子どもキャンプが外れる』という意味であり、現在はあくまで「検討中」と回答しているが、主催事業でなくなるのなら、それは断じて許し難い。
- ・ 子どもキャンプのようにこれまで日ユ協連主催で行ってきたものを、地域協会や県連主催にするということは、確かに日ユ協連としての支出が減るだろうが、これまで事務局がやっていた作業を地域がやることになる可能性が高い。それは想像するにとっても膨大な作業量に思え、なかなか持続することが難しくなるのではないかと危惧する。
- ・ 日ユ協連は様々な事業を展開している。確かに財政改善は必要だが、様々な事業の中からその対象は慎重に選ばなければならない。日ユ協連はこれまで青少年育成を掲げてきたのに青少年育成の予算に手をつけた。青少年育成は将来への投資ではなかったのかと強く憤りを覚える。
- ・ このままにすれば、上述のように子どもキャンプを筆頭に青少年育成予算を削減され、事業縮小を余儀なくされるだろう。その時、声を上げて遅いかもしれない。

文責：東京ユネスコみどりの会 手島 敬
(関東ブロック選出青年評議員)